

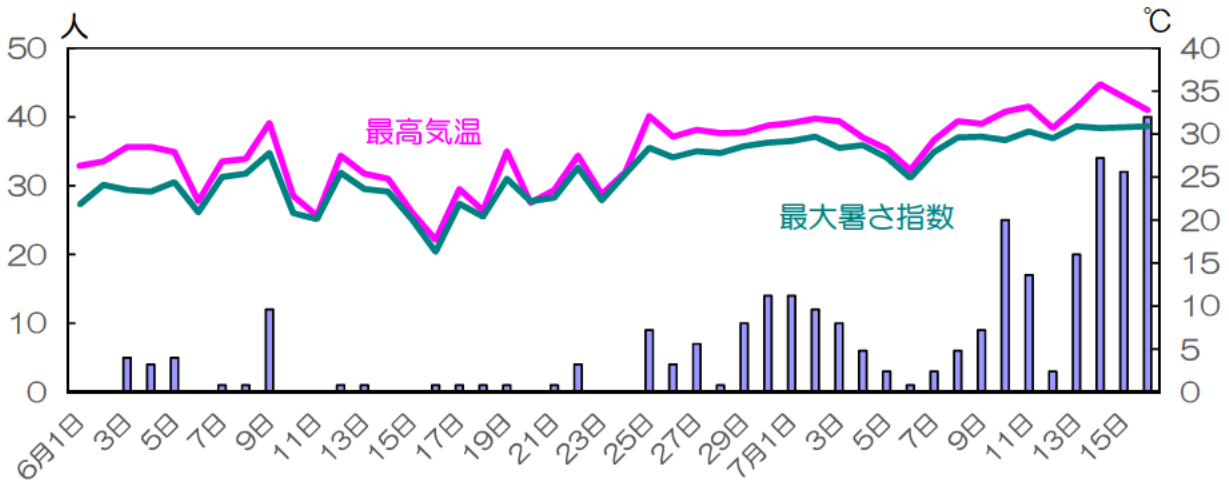
熱中症情報

<搬送数>

平成30年5月1日～7月16日までの搬送数（消防局データを使用）は、計342人（5月23人、6月84人、7月235人）でした。梅雨明け後、増加しています。

7月10日以降、最高気温が32℃以上を超えた日は、15人以上搬送されました。その後も暑い日が続いており、7月13日以降は、特に多くなっています（13日20人、14日34人、15日32人、16日40人）。

こまめに水分・塩分を補給して、室温が28℃を超えないように冷房を使用し、十分な休養をとるなどの熱中症対策をしっかりと行いましょう。



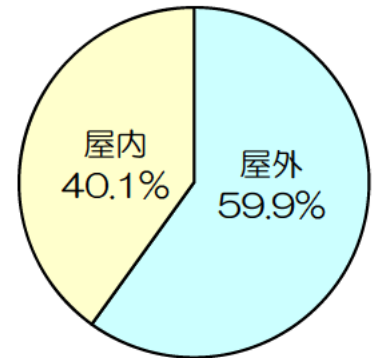
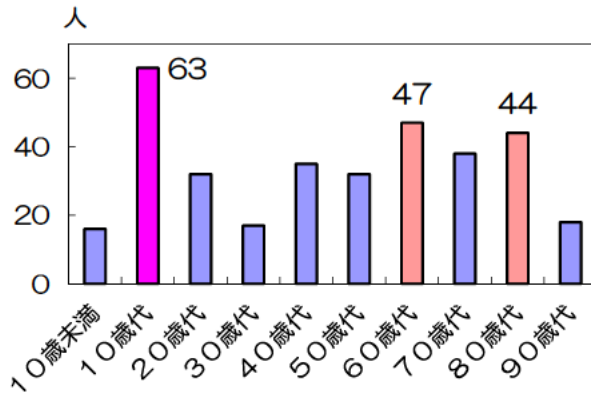
暑さ指数とは？人間の熱バランスに影響の大きい①湿度 ②日射・輻射(ふくしゃ)など周辺の熱環境 ③気温の3つを取り入れた温度の指標 詳細は「[環境省熱中症予防情報サイト](#)（暑さ指数(WBGT)とは?）」をご覧ください。

<年齢別>

年齢別では、10歳代が一番多く18.4%、次に60歳代で13.7%でした。

<発生場所>

屋外59.9%、屋内40.1%で、屋外での発生が多くなっています。



<重症度>

軽症64.0%、中等症31.9%、重症3.2%、重篤0.9%でした。重症以上は14人で、65歳以上が57.1%で、そのうちの62.5%が屋内で発生していました。高齢になると中等症以上が増加し、重症化の傾向が伺えます。

